

公益社団法人日本農芸化学会

2021年度 関東支部例会

報告者 古屋 俊樹 (東京理科大学・理工学部)

2021年11月27日(土)、オンライン(Zoomウェビナー形式)にて2021年度支部例会が開催されました。本例会では、本大会のトピックス賞受賞講演を一日で開催いたしました。

本年3月開催の仙台大会(オンライン)の一般講演1,299件のうち、31件がトピックス賞に選ばれました。関東支部では、責任発表者が当支部に所属するトピックス賞に選ばれた演題を一括で聴ける機会を設けようとの考えからこの企画が実施され今回で5度目となります。対象となった15件の分野別選抜状況を以下に示します。15件すべての方々に今回の支部例会でご発表を頂きました。分野が多岐にわたり、内容の濃いプログラムとなりました。

分野	環境科学・ バイオマス 利用	有機化学、 天然物 化学	酵素	食品	微生物	動物	植物	生物科学	English Session
総数 1299	51	224	69	291	342	114	92	73	43
選抜 31	2	5	1	7	8	3	3	2	0
割合 %	3.9	2.2	1.4	2.4	2.3	2.6	3.3	2.7	0
関東 15	0	4	0	5	3	2	1	0	0

今回の支部例会では、日本農芸化学会会員以外の方にもご参加いただき、161名(会員101名、非会員60名)もの方々に参加登録いただきました。土曜日にもかかわらず、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

講演会は定刻の10時10分に開会しました。松島支部長のご挨拶の後、トピックス賞受賞のご講演を20分の枠(15件)で、休憩2回を挟み、3つのセッションにわけて17時頃まで行われました。次ページ前半はそれぞれのご講演者とご講演タイトルです。



松島支部長
のご挨拶



JSBBA KANTO

<トピックス賞受賞 15件 >

佐竹 遼子(キッコーマン)

「しょうゆ麹菌を用いたエルゴチオネインの高発酵生産」

張 譚云(筑波大学)

「自家蛍光シグネチャー解析による微生物の生死判別及び死因の推測」

今倉 悠貴(富士フイルム)

「ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の特性と食品機能解析への応用」

三原 敏敬(亀田製菓)

「*Lactobacillus paracasei* K71の経口摂取によるスギ花粉アレルギー症状の緩和効果」

尾仲 宏康(東京大学)

「goadvioninにおける脂肪酸部位の生合成の解析」

朝妻 知子(東京医科大学)

「サリドマイド催奇性を担うCRL4^{CRBN}のネオ基質の同定」

林 優里(お茶の水女子大学)

「高度不飽和脂肪酸欠乏における肝臓の中性脂肪及びコレステロールの合成亢進と制御機構」

永井 俊匡(高崎健康福祉大学)

「長期間の咀嚼は視床下部の遺伝子発現の変化と血圧の低下をもたらす」

三輪 真由佳(キリンホールディングス)

「超臨界流体クロマトグラフィーと結晶スポンジ法を連結した分析系における極性溶媒耐性結晶スポンジの活用」

星川 陽次郎(東京大学)

「奇数鎖脂肪酸は分裂酵母において細胞膜極性と細胞分裂に異常を引き起こす」

中村 篤央(協同乳業)

「腸内細菌叢と宿主の共役的なポリアミン代謝は大腸の上皮増殖とマクロファージ分化を調節する」

八幡 穰(筑波大学)

「一細胞自家蛍光シグネチャーに基づく非破壊的な油脂生産性の予測」

福田 隆文(キリンホールディングス)

「脳腸相関を活性化するホップ苦味酸摂取による注意機能およびストレス状態の改善」

上園 幸史(東京大学)

「pH低下による塩基性両親媒性構造の減少が抗マラリア薬耐性の原因である」

今野 浩太郎(農研機構)

「植物は毒針(針効果)で昆虫を撃退する？—シュウ酸カルシウム針状結晶が植物防御タンパク質・物質の働きを劇的に増強する相乗効果」

ご講演者全員から、トピックス賞ならではの素晴らしい研究発表をしていただきました。私も大変興味深く聴かせていただき、あっという間に時間過ぎてしまいました。ご参加者の方々も同様の印象を持たれたのではないかと思います。オンラインですとその表情がご講演者に伝わらないのは少々残念に思いました。

末筆ではございますが、ご講演してくださいました先生方、ご参加くださったの方々、また、運営に協力して頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。



支部例会の様子